

【国語】 < 小学校 第6学年 >

1 結果のポイント

「聞く能力」については、意見と理由を区別して話合いの内容を聞く力をみる問題の正答率が90%を上回り、その他の問題の正答率も80%程度であり、力が身に付いている。

「書く能力」については、意見と理由を区別し文章全体の組立てを考えて書く力をみる問題の正答率が80%を上回っており、力が身に付いている。

「読む能力」については、登場人物の関係を考えながら読む力、登場人物の心情を想像しながら読む力をみる問題の正答率が90%を上回っており、力が身に付いている。他方、優れた表現に着目して想像を広げて読む力をみる問題の正答率は60%を下回っており、力が十分身に付いているとはいえない。

「言語についての知識・理解・技能」については、漢字を正しく読んだり書いたりする力をみる問題など、正答率が90%を上回っているものが多く、力が身に付いている。他方、漢字を書く力をみる一部の問題の正答率が60%程度であり、力が十分身に付いているとはいえない。

2 結果の分析

(1) 相手の意図をつかみながら話合いの内容を聞く力をみる問題の例(話す・聞く能力)

< 問題 > の二

話し合いで出された「外来語を積極的に使った方がいい」という意見の中で述べられていた理由はどれでしょう。次の中から一つ選び、その記号をの中に書きましょう。

- ア 外来語は昔から使われているから。
- イ 外来語でなければ表せない物事があるから。
- ウ 外来語を使うと文化が豊かになるから。
- エ 外来語の方が日本語よりすぐれているから。

< 結果 > 正答率 91.8% (正答...イ)

< 分析 >

この設問はテーマ「外来語の使い方」に対する話し合いを聞き、賛否の立場とそれぞれの根拠としている理由が正確に聞き取れているかを調査する問題である。類題として、指定された人物が発言した内容の大筋をとらえる「の一」があるが、いずれも高い正答率であった。話し手の考えの立場はどちらか、根拠として取り上げていることは何かを的確に聞き取る力が身に付いている。また、話し合いにおける一人一人の発言のポイントをテスト用紙に主体的にメモする児童がみられた。第3学年及び第4学年の「要点などをメモに取りながら聞く」指導の成果が現れていることが伺える。

(2) 事象と感想、意見などを区別して書く力をみる問題の例(書く能力)

< 問題 > の四

この学級で話し合われている「外来語の使い方」について、あなたはどのように考えますか。自分の意見を5行以上7行以内でわかりやすくまとめましょう。

なお、最初に「自分の考え」を述べ、そのあとに「自分で見たり、聞いたり、体験したりしたことをもとにした理由」を述べるという順序でまとめましょう。

< 結果 > 正答率 80.7%

< 分析 >

「外来語の使い方」をテーマにした話し合いで出された意見を参考にして、同テーマに対する自分の意見を理由を明確にして書く力を調査する問題である。解答欄に記入した児童は94%程度で、多くの児童が意欲的に取り組んでいる。意見と理由が明確に区別され、文章構成がしっかりとしている意見文が多くみられた。筋道を立てて文章を書く力が付いているといえる。しかし、

取り上げた理由が曖昧で説得力に欠ける意見文も見られた。また、接続語が適切に使えず段落と段落がうまくつながっていなかったりする意見文がみられた。言語事項の言語に関する事項で身に付けた力が、実際の言語生活に生かされていない傾向が伺える。

- (3) 登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読む力をみる問題の例 (読む能力)

<問題> □ の五

この物語のことを5年生のみんなに紹介します。この物語の表現の特徴を最もよく表しているものを次の中から一つ選び、その記号を□の中に書きましょう。

- ア 色を表す言葉をいろいろと使って書いている。
- イ 読者に呼びかけたり語りかけたりするように書いている。
- ウ 実際にあった具体的な例を示して意見を書いている。
- エ 文末を「～である」「～だ」などの言い切る形で書いている。

<結果> 正答率 55.3% (正答...イ)

<分析>

物語の優れた表現に目を向けて表現のよさや表現の効果などを感じ取って読み進めていく力を調査する問題である。この問題の正答率は55%と低く、誤答も分散していたが、特にイ、ウの誤答が目立った。このことは、文章の表現の特徴をとらえることができない児童が多いことを示している。文学的な文章における「読むこと」の指導で、登場人物の心情等の読み取りに偏らない指導が必要である。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

- ・年間指導計画や単元指導計画の導入の段階に、学習の見通しもち、どのような力を身に付けるように努力するのかを明確にさせるガイダンスなどの場を位置付ける。また、終末の段階には、学習したことが身に付いたかどうかを児童自身が自覚することを意図した言語活動を位置付けていくことが大切である。
- ・各領域、特に「読むこと」の指導事項について、それぞれが関連的に指導されるようにするとともに、それぞれの能力が偏りなく養われるよう配慮することが必要である。

(2) 指導方法の工夫改善

- ・「話すこと・聞くこと」や「書くこと」においては、「伝える」から「伝え合う」ことを重視した言語活動を積極的に取り入れていく。例えば、小グループによる相互評価の活動を取り入れ、自己評価とのずれについてじっくりと見つめることにより自らの学習をよりの確にとらえる力を付けていくことが大切である。
- ・「話すこと・聞くこと」においては、場面を想定した学習の場面設定を工夫するなど、場面意識を明確にもたせる指導の工夫を図ることが大切である。
- ・「読むこと」においては、一つ一つの叙述に目を向け、じっくりと思考・想像し言語感覚を養っていくために短文作りなどの言語活動を位置付けるなど、文章の内容の読み取りに偏りすぎることないように留意する。また、理解を一層深めたり理解の成果を確かめたりするための授業の終末における活動を工夫する必要がある。
- ・「言語についての知識・理解・技能」においては、漢字の読み書きの力をより高めたり、原稿用紙の正しい使い方を身に付けてたりしていくために、視写や聴写、短作文などの言語活動を積極的に取り入れ、年間を通して繰り返し指導していくよう工夫する。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

- ・委員会活動や係の活動などで児童が作成した資料や掲示物、連絡の場を有効な指導の場としてとらえ、漢字や言葉遣い、表現の仕方が目的や場に応じたものかどうかを視点にして見届け、価値付けるなどの指導・助言をする。
- ・国語の時間には常に机上に国語辞典を置き、必要に応じて主体的に活用していく習慣を身に付けるようにする。